

災害時に強いLPガス



災害のとき、不便な生活を強いられる被災地にも、利点を生かして対応できるのがLPガス。便利で役立つLPガスについて、「災害」をテーマに見直してみましょう。

大地震の時、LPガスって実はとっても役に立つの。どうして分かる？

どうして〜??

電気
都市ガス
水道

電線や導管が壊れて使えなくなることも。

LPガスなら
容器で運べるから
すぐに使える!

キャンプと同じだね!

復旧も時間がかかる場合が多い

熱量が多いから
大人数のモノを作るのに
向いているわ。
あと、避難所では
暖房やお風呂にも
使われます。

仮設住宅でも
LPガスが使われ、
みんなの役に
立っているのよ。

火があるって
便利だものね〜

便利で役立つ特長から、災害時を考えて自治体でLPガスを準備しているところが増えています。

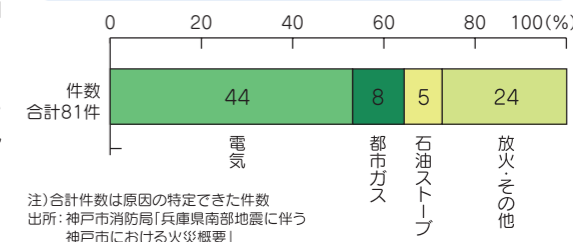
豆知識 実際の大規模地震でも実証された、LPガスの貢献度

阪神・淡路大震災(1995年)では実質約10日、新潟県中越地震(2004年)では18日と他のエネルギーと比べていち早く復旧を果たしました。また、両震災において避難所での緊急の炊き出しや仮設住宅にもLPガスが供給され、避難生活の支援にも大きく貢献しました。LPガスが防災都市づくりに不可欠なエネルギーであることが改めて実証されました。

災害時におけるLPガスの安全性

阪神・淡路大震災において、予想以上に被害を大きくした原因は火災でした。地震発生から10日間に神戸市内では175件の火災が発生しましたが、LPガスを原因とする火災はありませんでした。また、新潟県中越地震でも、LPガスを原因とする火災などの二次災害はゼロでした。その理由として、LPガス容器の容器バルブを閉じれば、ほとんどの二次災害を防ぐことが可能であるという点が挙げられます。

阪神・淡路大震災における火災原因

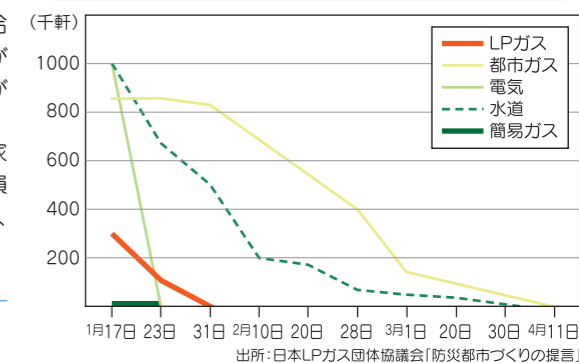


災害時のLPガスの利点

●復旧が早い

LPガスは、容器にて各家庭に戸別にガスを供給しているため、各家庭ごとに点検を行い異常がないことが確認できれば、すぐに使用することが可能となり素早い復旧ができます。都市ガスの場合は、地下に埋設された導管で各家庭等にガスを供給しているため、1カ所でも折損など異常が発生すれば、すべてが使用不能となり、復旧に時間がかかります。

阪神・淡路大震災におけるライフライン復旧状況



●災害時の対応が早い

LPガスは、容器にて戸別にガスを供給することが可能なため、災害が発生した時など、避難所への炊き出し用、仮設の風呂・シャワー用、仮設住宅への供給など、災害後においても素早い対応ができます。現在LPガス業界として各自治体にLPガスの啓もう活動を行い、復旧対象の拠点となる学校や病院などの公共施設を始め、多くの施設にLPガスの設備を導入してもらうよう働きかけを行っています。

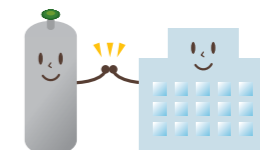
仮設住宅にLPガス設備を1日で200世帯分設置



写真: 産業報道出版(株) (阪神・淡路大震災)

災害時におけるLPガス供給に関する相互支援協定書

災害によってLPガスの供給に支障が発生した場合、他のLPガス販売事業者がLPガスの供給を支援する目的で、相互支援協定を締結しています。これにより安定供給の確保が迅速に図れます。



相互支援協定